

ロンドン近郊空港視察の概要

～ 民間運営による空港の活性化 ～



宮城県知事 村井嘉浩

平成25年2月12日

1 目的

- ・ 仙台空港の民間委託や旅客数の増加の手法等の参考とするため、ロンドン近郊にある民間事業者が運営する2つの空港(ロンドン・シティ空港, ルートン空港)を視察。

ロンドン近郊地図



ルートン空港



ルートン空港

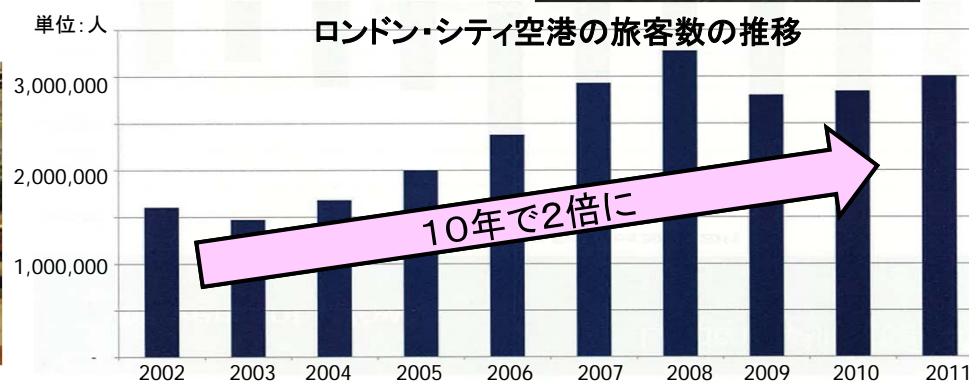
ロンドン・シティ空港



ロンドン・シティ空港

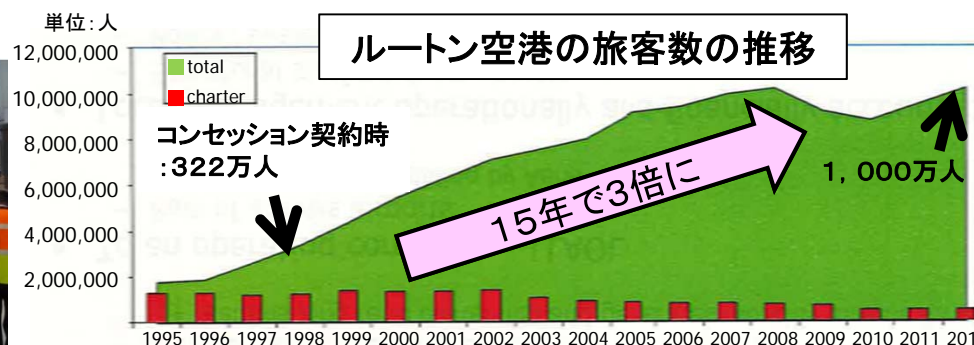
2 ロンドン・シティ空港

- ・ロンドンの中心部にあるドッグ跡地を再開発して作られたコンパクトな空港。
- ・地理的特性を活かし、ビジネス客をターゲットとした戦略を展開。
- ・ここ10年の間で旅客数が2倍の300万人(02年:150万人)に。
- ・COOが先頭に立って地域活動に参画。COOは「自治体や地域とよい関係を築かなければ、空港事業の成長はない」と語っている。



3 ルートン空港

- ・「コンセッション方式」をイギリスで唯一採用している空港。
- ・チャーター機中心の空港運営から、LCCやビジネスジェット中心の運営に転換。
- ・商業施設を増やすなど民間ならではの工夫を凝らしたサービス向上と収益確保策により、目標の1000万人(契約当時322万人)をわずか15年で達成。
- ・空港事業で得た利益の一部は毎年「地域」に還元。



4 視察を終えて

- ・民間運営事業者は、利用者へのサービス及び収益向上に日々取り組んでいるほか、地域とも積極的に関わるなど、多いに参考になった。
- ・仙台空港においても、民間事業者は空港を所有する国だけでなく地域にも積極的に関わり、三位一体の空港運営がなされることを期待している。
- ・空港事業で得た利益を地域に還元する取組は日本でも見習うべきである。
- ・15年で旅客数を3倍に伸ばした空港を目の当たりにすると、30年で倍増を目指す仙台空港の目標は達成できうと感じた。

